114
A2795

字國法律抄訳

官吏ノ責任及ヒ其職務罪ノ処分法

第一章　字國法律綱領ニ曰官吏タル者ハ其義務ヲ履行スルノ間須ラク精密ナル注意ヲ要スルモノトス若シ然ラスシテ失誤（善ク注意シ且ツ須要ノ知識学術ヲ具フルト雖ハ蓋シ之レ無カランニ）ヲ生スル時ハ之ヲ其身ニ負ハレムヘシト故ニ各官吏職務施行中ニ分外ノ事ヲ為シ或ハ本分ノ義務ヲ放擲スル時ハ恐ラク其責ニ任スヘシ但シ此責メハ第一大政府及ヒ各管轄廳ニ對シ第二其義務ニ字ル所業若クハ放擲ニ因テ獲利ヲ害セラレタル庶人ニ對シテ之ヲ負フモノトス通常吏員ハ（執政官ノ國ニ對スルハ拾到ナリトス）國會縣會ヨリ受クル責メ無シ然レトモ官吏ハ失職ニ對シ其処分有ルヘキ為ノ國會縣會ハ之ヲ

大正十一年四月
大喜侯爵家寄贈

政府ニ申立或ハ之ヲ執政官ニ問ヒ得ルノ権有リ官吏故意ヲ以テ義務ヲ乱リ或ハ不従順若クハ懈怠ノ所業ヲ為ス時ハ其沿罪ノ性質ハ分ヲ之ヲ二箇トス則チ司法処分及ヒ司法外処分之ナリ更ニ司法処分ヲ区別シテ民事刑事ノ二種トス則チ政府私人タルノ権利ヲ以テ官吏ニ対スル告訴ヲ為ス時ハ之ヲ民事トシ又官吏ノ犯為若クハ放擲刑法書中ニ掲クル普通罪若クハ官吏犯罪ノ性質ニ適スル時ハ之ヲ刑事トス

第二章　其義務ニ孚ル所業ヲ為ル若クハ之ヲ放擲セル官吏ニ対スル司法外ノ処分ニ在テハ懲戒令ニ拠テ論セラルヘキ職務罪若シ法ニ於テ補償若クハ民事ノ義務ヲ負フヘキ性質ニ係ル時ハ之ヲ民事裁判所ヘ訴ヘ出フヘシ但シ其管轄庶ハ懲戒処分ノ外被害者ノ申立ヲ満足セシメ或ハ其官吏ヲシテ義務ヲ尽サシムル等恐テ其職務上ノ権ニ係ル又ハ之ヲ行ヒ得ルノ権ヲ有スル者ナリ○官金及官府ニ官照セル金円等ノ缺亡スル時之ヲ確定シ及ヒ其償却ヲ命スルハ一千八百四十四年一月二十八日ノ布令ヲ以テ定メタル一種別ノ行政処分ニ係ル但シ此布令ハ一千八百六十七年九月二十三日ノ公布ヲ以テ尼ソ近世戡定セル諸郡国ニモ齊シク施行スヘキコトヽセリ其條規則ヲ左ノ如シ

一　官庫中若クハ公用ニ供セシ公私ノ金円物品ノ内缺亡スル時先ツ之ヲ確定スルハ親シク此官庫及ヒ金円等ヲ管督スル官廳ノ司トル処トス尤ニ該廳ハ其缺亡ノ責メヲ受クヘキ人ト及ヒ其缺亡若シ物品ニ係ル

時ハ此代償ノ告知ナルトヲ確定スヘシ又官事其他公用ニ引當テシモノニ非ストイヘトモ時別ノ官令ヲ以テ其官吏ノ管理ニ付セラレシ公私ノ金円缺亡スル時ハ日ヲ之ヲ監督スル廳其缺亡ヲ確定スヘシ

二 缺亡ノ員数、其償却ノ義務ヲ負フ人、共ニ其之ヲ義務トスル所以ノ決定ニ付テハ精密ナル理由ヲ掲クシ決定書ヲ作ルヘシ而シテ其決定若シ中央省若クハ縣廳ニ於テセル時ハ直チニ之ヲ決行スヘシ但シ他ハ上廳ノ認可ヲ請ケテ後チ之ヲ決行スヘシ但シ上廳ハ其決定書ヲ創定シ或ハ更ニ改正スルコトヲ得

三 官金缺亡ナキ其償却ヲ要求セラレタル官吏ニ對シ「エキセクシヨン」ヲ為スヘキ時訪官吏若シ已ニ就官ノ保証金ヲ納シシ者ナル時ハ其保証金ヲ置テ別ニ其財産中ヨリ之ヲ取立ツルヲ要ス然レトモ若シ其保証金ヲ以テ之ニ充ツル時ハ更ニ円負数ノ保証ヲ定メシ後ニ限ルヘシ又行政官ノ自ラ付取処分ヲ決定シ之ヲ言渡シ得ル者（其他償金円ガ管理セシ官吏其償却義務有ル官吏）ニ對シテハ之ヲ決行シ得ルト並モ尓他ハ（保証人及ヒ保証物ヲ貸シタル所有主）之ヲ其地ノ裁判所ニ依頼スヘシ

四 償却ノ員数及ヒ償却スヘキ事由ノ決定ニ付テハ其言渡ヲ受ケシ者ハ上廳ハ故障申立ヲ為シ得ルノ外一年以内ハ之ヲ上等裁判所ヘ控訴セルコトヲ得ヘシ然レトモ其付取リ処分ハ為メニ猶豫スルコト無シ又刑事ニ関シテハ一年経過ノ後トイヘトモ故障申立ヲ為シ得ヘシ共ニ財産或ハ俸給ノ押収ヲ言渡サレタル者ハ其言渡ニ對シ上等裁判所ニ控訴シ得ルコト裁判

所ヨリ禁錮ノ言渡サレタル時ニ於ル如シ

五 一千八百四十四年一月廿四日ノ布令中ニ掲クル規則ハ恐ラク公ケノ金庫、納金取扱所及ト其官吏（司法部トモ）共ニ軍用金米穀倉諸種準備金ノ取扱ニハ言ニ及ハス恐ラク将校以下軍卒ニ至ル迄之ニ拠テ論セサレ〻キモノトス

六 特別ノ法律ヲ以テ廳署及各設置場（浮校病院貧院ガノ如キ）其官吏ニ對シ付取処分ヲ為シ得ルノ権トスル或ル収税官ハ別段准許無シトイヘトモ付取リヲ為サヽルヘキ事トハ恐テ之ヲ変更セス

第三章 官吏ノ職務罪ニ對スル司法処分ニ付テハ憲法第九十七条ニ掲載スルコト左ノゴトシ

甲 凡ソ文官武官其権限ヲ越ヘ法律ヲ犯スヲ以テ司法部ヨリ追問ヲ受クルノ取極メハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定ム

乙 其追問ヲ為ス時ハ該官吏ヲ管轄スル廳ノ承諾ヲ要セス

官吏ノ職務罪処分ニ付キ司法省ト本管轄廳トノ権限争ヒヲ分ツヘキ為一千八百五十四年二月十三日、法律ヲ以テ憲法第九十七条ノ旨ヲ衍敷シ其施行ノ方法ノ確定ス此法律ハ憲法頒布以前ノ法ヨリ官吏ニ對スル司法追問ヲ稍々限制スル処多シ凡ソ往時ノ法律ニ拠テ官吏ノ職務上ニ関スル所業ニ對シ司法部ヨリ民事刑事ノ裁判ヲ受クヘキヤ之ノ受クルニ方テハ何ヲノ特令有ルヤヲ考フルニ同運ノ進歩ニ従ヒ其変革実ニ数々ナルヲ以テ往時ハ斯ノ如シ〻一言ニシテ之ヲ盡ス能ハス則チ其

概略ヲ巻ケンニ官吏ノ職務罪ヲ以テ告訴スル者有ル時ハ其訴ヲ受理セシ裁判所直チニ之ヲ該官吏ノ管轄廳ヘ報告スヘシトシ或ハ官吏ノ職務罪ニ對スル糾弾ハ豫メ本管轄廳ヨリ請求アリシ事件ノ外ハ其職務罪他罪ノ平人トイヘトモ差置クヘカラサルモノト相連接スルノ外ハ之ヲ為シ得ヘカラストシ或ハ又官吏ノ職務罪ニ付テハ該官吏ニ對シ直チニ裁判所ヨリ其罪ヲ咎ハヘキヤ否ハ豫メ其管轄廳ニ照會シテ其決定ニ至スヘキヨトシ或ハ官吏ノ職務罪ヲ裁判所ニテ糾弾スルハ本管轄廳ノ依頼ニ由ルトシ或ハ官吏其職務ヲ行フノ間他人ノ栄誉ヲ害スル所業アリテ申立ラレタル時ハ該管轄廳之ヲ査察シ其権内ニ係ルノ所業ヲ以テ之ヲ為セシ時ハ本廳ニ於テ糾弾スヘシトシ又疆域、租税、森林、狩猟ノ監吏兵器ヲ以テ他人ヲ毀傷セル時ハ裁判所其糾弾ヲ為シ得ルトイヘトモ本管轄廳ハ之ニ對スル故障ヲ立テヲ為シ得ヘシトシ或ハ官吏其職務執行ノ間他人ノ栄誉ヲ害スル所業ヲ以テ裁判呼出ヲ受ケタル時ハ其下吟味ヲ終ヘ未タ本吟味ニ及ハサル前ハ裁判所ハ先ツ其管轄廳ヘ照會スヘキコトヽセリ右ノ如ク屢々変更アリシ後チ終ニ千八百四十八年創定ノ憲法第九十五条ヲ以テ更ニ一定ノ法ヲ立テヲ文官武官ヲ問ハズ其職権ヲ越ヘ法度ヲ犯ス者アル時之ヲ裁判スルハ豫メ其管轄廳ノ承諾ヲ要スヘシト無シト雖モ初メテ官吏ニ對スル民事刑事ノ裁判ハ齊シク之ヲ裁判所ニ於テ為スヘキ事ト定マリ其後一千八百五十年憲法改正ノ間ニ方テモ聊カ変スル必無シ但シ其裁判ハ何等ノ豫定中ニ於テ之ヲ為シ得ベキヤハ

別ニ法律ヲ以テ之ヲ定ムベキコトヽシ乃チ是後一千八百五十四年二月十三日ノ法律ヲ以テ前ノ如ク司法部ニ於テ懲ラ官吏ノ職務罪ニ係ル裁判ヲ為スヲ以テ刻薄ノ誅ヲ受ケ或ハ之ヲ受ケントスル恐レヲ以テ行政廳ノ渋縮スル有ランコトヲ慮リ更ニ條例ヲ設ケテ之ニ備ヘル左ノ如シ

第一項　文官武官ヲ問ハズ凡ソ其職務ヲ行フニ方リ或ハ之ヲ行ハント欲シ分外ノ所業或ハ義務ノ放擲ヲ以テ民事刑事ノ裁判ヲ受クル時該官吏ヲ管轄スル縣廳若クハ中央廳ハ自ラ司法廳ト權限爭ヒ其料弾ノ為シ得ベキ權有ルモノ受クル所業若クハ放擲ヲ以テ其罪ト為サヽル時ハ故障申立ヲ為シ得ルノ權アリ然ルトキハ權限判決裁判所成ル所ニ据テ之ヲ決スベシ

第一項　該裁判所ハ其決定ヲ為スノ前猶ホ事実ノ明確ヲ須要トスル時ハ行政廳若クハ裁判所ニ命シ殊ニ其已ニ取捌リタル裁判所ニ於テ要旨ヲ確定スル迄之ヲ取糺サシメ得ルノ權有リ但此事実ヲ得ントスル場合ニ臨テハ確定ノ申渡ヲ為スノ前先ツ該事件ニ関係アル私人ニ聞糺スベシ

第三項　同上裁判所若シ官吏ノ処業若クハ放擲ヲ以テ其罪ニ非スト看認ル時ハ其裁判ヲ差止メ又其罪有リト為ス時ハ其裁判ヲ為スヘキヿヲ命ス

第四項　已ニ退職セル官吏ノ在職中ニ取扱シ事件ニ付キ本人ニ對スル裁判或ハ官吏ノ嗣子ニ對スル裁判モ亦此条規（第一至第三）ニ由ルヿ可シ

第五項　同様ニ公務ヲ取扱フ者モ亦官吏（第一項）中ニ

美入スベシ

第六項　兵籍ニ在ル者其職務施行中或ハ其職務ヲ行ハント欲シテ為セシ所業或ハ其放擲ヲ以テ常事裁判所ニ呼出サレシ時亦此法律千八百五十四年四月十三日ニ因テ処分セラルベシ

第七項　左ノ者ヲ裁判スルニハ此法律（一千八百五十四年二月十三日）ヲ用フベカラズ

甲　裁判官

乙　爾他司法官吏但シ捜事及ヒ司法警察官吏ハ此限ニ在ラス

丙　「ケルン」上等裁判庭内ニ於テル地籍掛及ヒ戸籍掛ノ官吏

之ヲ以テ東六州ニ於テハ警視長官及ヒ其代理者トモ此法律ヲ受ノ可シ

第四章　官吏其職務ニ字テル所行ヲ為シ又ハ其職務ヲ怠リニ放擲スルニ因リ損害ヲ生シシタル時之カ賠償ヲ為スベキ義務ニ付キ字国法律原則左ノ如シ

第一項　責任ノ義務アル官吏ハ特リ政府（則其長官）ニ對シテ賠償ノ義務ヲ負フノミニ止ラズ猶ホ其損害ヲ受ケシ私人ニ對シテモ之ヲ負フモノナリ

第二項　有心故造又ハ甚キ失誤ヨリ生シタル損害ノ賠償ヲ為スベキ義務ニ係ル普通法則ハ官吏ニモ亦之ヲ施行スベシ但シ長官ノ命ヲ以テ行ヒシ事件ニ限リ大抵賠償ノ責ヲ無シ然レトモ長官ノ命スル所法律中ニ禁止ノ明文アル時之ヲ施行セシ者ハ出格ノ場合トシ賠償義務有ルモノナリ若シ長官ノ命シタル事件法

令ノ禁止タルヲ以テ施行スル時ハ被害者ニ對スル賠償ノ義務ハ之ヲ免ルヽヿ能ハストイヘドモ更ニ長官ニ對スル告訴ヲ為シ得ルノ權アリ

官吏其長官ヨリ受ケタル命令ノ區域ヲ越ヘテ施行スルヿアリ為メニ損害ヲ生スルトキハ必ス其賠償ヲ為スヘキモノトス並ニ禁制ノ事件施行ノ命シタル官吏ハ其命ヲ受ケテ施行セシ者ニ先ツケ主トシテ其損害ノ賠償ヲ為スノ義務アリ又之ヲ遮止スルノ責メアリ之ヲ止メ得ベクシテ止メズ情ヲ知テ之ヲ為サシメシ者ハ之ヲ命シタル者ト等シキ責ヲ負フ

第三項　官吏ト雖ドモ故造又ハ甚キ失誤ヲ以テ生シタル損害ハ之ヲ賠償スヘキノミナラズ尚ホ其名個ノ失誤ニ付キ通晓者トシテ其責ヲ負フモノナリ

成規ノ如ク注意セハ蓋シ一官ノ失職有ラサルベキニ其怠慢ヨリ損害ヲ生セシ時ハ害ヲ受ケシ者政府ト私人トニ論ナク長官亦賠償ノ義務アリ

但シ或ル官吏失誤又ハ長官監督ノ懈怠ヨリ損害ヲ生シタル時其補償一モ他ニ適當ノ方法無ノ已ムヲ得ザルノ場合ニ方テノミ代理法ヲ用フルヿ有リ

第四項　一局ノ官僚ノ代理義務法ハ特ニ各局各課ノ為メニ設ケタル條例アル時ハ先ツ之ヲ以テ必ラズベシ

但シ該條例中ニ欠漏アレバ一般ノ法令ニ由ル也ノ過誤ヨリ生シタル損害ヲ償ハンヿヲ賠償スヘキ時ハ官僚中無形ノ人トシテ之ヲ負フニ非ス無形ノ人トシテハ這的ノ義務ヲ負フベキ謂レ無シ却テ之レ各個現人ノ義務タリ其見人ヨリ損害ヲ受ケシ者ニ對スル補

償ノ規則ハ未タ釐々完全セサル必アリトイヘトモ凡ソ
左ノ原則ハ之ヲ実施スベキモノトス

一 求償ノ許ハ其失誤ヲ生セシ時現在セシ局員ノ一統
ニ對シテ之ヲ為スベシ

二 但シ左ニ掲クル者ハ其責ヲ受クベカラス

イ 発言ノ権無アラサリシ者

ロ 長官ノ認可ヲ以テ不参或ハ疾病ヲ以テ不在ノ者

ハ 衆員ノ必置或ハ其決定ヲ否議シ其否議セシ事ヲ
確証ヲ以テ示ス者
他ノ証拠ハ之ヲ執ラス

三 爾他ノ者ハ其損害若シ有心故造或ハ甚キ失誤ニ出
テシ時或ハ損害ノ幾部分ヲ各人時自ノ失誤ニ因テ
生シタルヤヲ知ル可カラサル時ハ連帯シテ之ヲ賠
償セシム但シ尋常若クハ僅損ノ過誤ニ関係セシ者
ハ其賠償ノ義務ヲ充シ得サル失誤者ノ為メニ相当
ノ助力ヲ為スノ外関係ノ多少ニ随ヒ其割合ノ以テ
之ヲ償フベシ但シ更ニ他對スル告訴ヲ為シ得ベシ

四 各員不正ノ説明ヲ為シ或ハ償ノ決定ニ相違セル
不正ノ命令書ヲ手記シ其他職務ニ非サル事ヲ為シ
或ハ其怠慢ノ故ヲ以テ失誤ヲ生シタル時ハ其本人
上トシテ之ヲ賠償スヘク並ニ職務上成規ノ注意ヲ
以テ之ヲ禁スベキ責メアル者亦傍ラ其義務ヲ免レ
ス

五 猥リニ其誤ヲ分チタル時ハ分誤ヲ為スト雖モ代理
義務上ニ於テ其口達タルニ殊ナルヿ無シ但シ其過
誤ノ責メヲ受クベキ諸員ニ對シテ之ヲ訴ヘ号ベシ

分課ノ命アリ其職務ノ分タシ者ハ代理義務ニ関係
アル事無シ

〔六〕同負ノ嗣子親ノ賠償義務有リシ時ハ他ノ負債ニ齊
シク之ヲ引受ノ可キ義務有リ

第五項　官吏ニ對シ損害ノ償却ヲ求ムル者ハ其損害
及ビ其人ヲ知リシ以後三年以内ニ訴ヘ出ルヲ要ス若
シ此期ヲ越エル時ハ之ヲ訴フルノ権利無キモノトス
然レ𪜈政府其賠償ヲ要求スルハ此例ニ在ラズ則チ通
常期満得免ノ期限ニ拠ル此規則ハ損害ヲ與ヘシ者其
時更ニ利益ヲ與ヘ損益相償フニ足ルト雖モ猶ホ施行